

地域に見守られ、自然に学ぶ——八幡小じょうもん留学

屋久島町立八幡小学校

屋久島町では、町外から町立小学校への入学・転学を希望する児童を受け入れ、地域活性化や複式学級の解消を図る「屋久島町山海留学事業」を実施しています。八幡小学校は島南部に位置し、温暖な気候のもと柑橘栽培が盛んな地域にあります。古くから来訪者を温かく迎える風土があり、留学生家族も地域ぐるみで支えられています。こうした恵まれた環境を生かし、本校は「共に学び、共に育つ」教育を進めています。

四季を通して広がる多彩な自然体験

活動の大きな魅力は、屋久島ならではの自然を舞台にした多彩な体験です。春には裏山で専門家とともに「ヤクタネ五葉松」の生態調査や森の生き物の観察を行い、土の匂いや木々の息づかいを感じながら自然の仕組みを学びます。夏には清流での川遊びや水生生物の観察を行い、3・4年生は環境省レンジャーのサポートを受けて栗生海岸で磯観察に挑戦します。自分たちが暮らす島のよさを知るとともに、環境を守る意識を育てる学びへとつながっています。

初冬には、5年生が近隣校と合同で屋久杉の森を歩き、樹齢千年を超える木々の迫力を肌で感じるとともに、中学校で共に学ぶ仲間づくりにもつながる貴重な体験を行っています。

地域に根づく文化と人とのつながり

地域との交流も重要な柱です。校区の小島・平内・湯泊の各地域は、子供たちを我が子のように見守り、「夏祭り」「十五夜」「祝い申そう」「鬼火焚き」などの伝統行事を、世代を超えて受け継いでいます。その背中を見て育つことで、子供たちは縦のつながりを学び、将来、地域を支える人材へと成長していきます。こうした地域に支えられる活動を通して、「人とのつながりの大切さ」や「地域に貢献しようとする心」が育まれ、自分の将来を考えるきっかけにもなっています。

屋久島で過ごす1年は、自然と人とのつながりを深く感じ、自分自身と向き合う特別な時間です。八幡小学校の「じょうもん留学」は、子供たちが自分らしく成長し、生きる力の土台を築くための貴重な期間となっています。

少人数だからこそ育つ、助け合いと自己肯定感

八幡小学校の「じょうもん留学」は、世界自然遺産・屋久島の豊かな自然と地域の温かいつながりの中で、子供たちが本物の体験を通して成長することを大切にしたい取組です。今年度は全国から5家族8名が制度を利用し、島の子供たちとともに自然の中でのびのびと学んでいます。

活動の大きな魅力は、屋久島ならではの自然を舞台にした多彩な体験です。春には裏山で専門家とともに「ヤクタネ五葉松」の生態調査や森の生き物の観察を行い、土の匂いや木々の息づかいを感じながら自然の仕組みを学びます。夏には清流での川遊びや水生生物の観察を行い、3・4年生は環境省レンジャーのサポートを受けて栗生海岸で磯観察に挑戦します。自分たちが暮らす島のよさを知るとともに、環境を守る意識を育てる学びへとつながっています。

屋久島で過ごす1年は、自然と人とのつながりを深く感じ、自分自身と向き合う特別な時間です。八幡小学校の「じょうもん留学」は、子供たちが自分らしく成長し、生きる力の土台を築くための貴重な期間となっています。



5月のレンジャー体験(海編)



幼稚園横の小川で生きもの観察